



日本医療福祉生活協同組合連合会

東日本大震災支援ニュース No.22

(2011年3月25日 19時現在)

26日 物資支援センター（新潟）から 第2陣トラック出発



←倉庫に山積みされた支援物資

26日便には以下の医療福祉生協から届いた物資が積み込まれます

ひかわ医療生協、南医療生協、ながおか医療生協、西成医療生協、東京ふれあい医療生協、三多摩医療生協、なにわ保健生協、医療生協さいたま、新潟医療生協、乙訓医療生協、筑後医療生協、群馬中央医療生協

【医療福祉生協連 東日本大震災物資支援センターについて】

1. センターに送付いただく支援物資は被災している医療福祉生協が必要としているものに限ります。
2. 必要としている物資は会員支援サイトでご確認ください。
会員支援サイト：<https://www.hew-coop.jp/>
3. センターに発送を希望される生協は、医療福祉生協連・会員支援部Tel03-4334-1580にご連絡ください。

物資送付先

〒950-0891

新潟市東区上木戸 5-2-1 電話 025-274-7139 FAX 025-273-2073

新潟医療生協内 医療福祉生協東日本大震災支援物資センター係

※上記電話は、宅急便です。お問合せは下記までお願いいたします。

お問合せ先 Tel 03-4334-1580 (医療福祉生協連・会員支援部)

★物資は支援生協が配送センターに宅配便などを活用してお届けください

★センターには医療福祉生協連職員が1名常駐しています

被災地の医療福祉生協の状況

○松島医療生協



富山医療生協橋本氏の報告（抜粋、写真も）

第二次支援隊として、山形庄内医療生協経由で宮城県の松島海岸診療所まで支援物資を届けました。松島海岸診療所につくと、一階は浸水の影響で使えなくなっており、二階で生活して作業をされていました。震災の3日後から診療を始められていて、診療所も震災の影響で常に振動している感じがするなか、生活されているとのことでした。最も印象的だったのは、職員の方が笑顔でむかえてくれたことです。震災の被害を感じさせない位に前向きに生活

されていて、復興作業に取り組み、残り少ないガソリンを使って訪問活動までされていることに驚愕しました」（3月25日付東日本大震災富山民医連支援ニュースNo.9より抜粋）

○郡山医療生協

25日早朝、生協きたはま診療所のご厚意により、震災で壊れた目の状態を調べる細隙灯顕微鏡（さいげきとうけんびきょう）検査、視野検査を行うゴールドマン視野計が届きました。

浜北医療生協、富山医療生協、尼崎医療生協、長野医療生協、医療福祉生協連等から届けられた支援物資が、被災したり、買い物に行けなかったりする職員の生活をサポート。郡山医師会から依頼を受け、郡山高校の避難所を支援することに。郡山高校に避難されている大熊町の方々への対応として、昨日に引き続き、受診のための送迎バスを運行。

桑野協立病院のホームページに、震災関係の取り組みやお知らせを掲載。（3月25日、対策本部ニュースNo.10より抜粋）

○会津医療生協

25日、体温計、アレルギー用粉ミルク、生理用ナプキン段ボール6箱（192袋）などを郡山に。デイサービスセンターの医療生協わかばが24日から通常サービスを再開。9日ぶりの再開で職員も利用者も元気な顔で再会。これで全事業所が再開に。（3月25日付東北地方太平洋沖地震ニュースNo.7）

○福島中央市民医療生協

24日、福島県災害対策本部と連携を図り、約1000名が避難しているあづま総合運動公園（体育館）へ歯科の支援に。今後も、歯科訪問診療などで利用する歯科ポータブルユニットを持ち込んで、支援を継続。

原子力発電事故を注視しながらも、3月28日（月）からほぼ通常診療に。ガソリン供給は不十分ながら、乗り合いなど工夫しながら、事業所を運営。（3月25日、地震対策本部ニュース vol.12より抜粋）

○福島医療生協

24日、浜通りからの避難者13人が受診。以前医療生協わたり病院小児科に勤務していた現在、開業している医師がご自身の診療所の休診の合間を縫って外来診療を支援。この支援で、小児科の医師が避難所訪問に。

病院受付からボランティア希望の方が来ていると連絡が入り、行ってみるとそこには若い女性の方が。介護福祉士の勉強をしているが、休みなで、手伝えることがあればとのこと。震災直後から先週まで通所リハビリで行っていた震災保育所「元気の部屋」を再度立ち上げたいが、場所が…、人が…と悩んでいたところでした。事情を話すと、小学校で仕事をしていた経験も。家も病院のすぐ近く。場所は、病院となりの児童センターと交渉して利用できるように。テレビドラマのような展開。

東高校への炊き出しは今日(24日)で7日目。今月いっぱい継続する予定も、土曜、日曜は学校の調理室が使えなくなることに。そこで、渡利学習センターに事情を伝え、交渉したところ使用についてご快諾をいただきました。(3月日、東日本大震災対策ニュースNo.9より抜粋)

25日、十六沼体育館に避難されている100人への炊き出しを、朝9時現地集合で実施。北ブロックの4支部22人の組合員と、はな



ひらの職員3人、本部職員2人、ふれあいクリニックさくらみず職員3人の合計30人が参加。トン汁・おしるこ・焼餅を提供。体調を崩している方もおり、内5人がマイクロバスでさくらみずクリニックを受診。中には糖尿病で1週間薬を飲んでいない方も。血糖を測ったら440、薬を処方し生活上の注意を伝える。(3月日、東日本大震災対策ニュースNo.11より抜粋)

○浜通り医療生協



25日、医療福祉生協連の藤谷専務理事と野本常務理事が到着。理事長、専務理事と懇談し(写真左)、浜通り医療生協の状況(窮状と町の様子を含めて)を伝える。全国的支援について力強い励

ましをいただく。はるな生協(写真右、車から降りる野口組合員活動部長)、栃木保健医療生協、福島中央市民医療生協からの支援物資も到着。

支援状況

○医療生協さいたま

第6班医療支援隊メンバーとして、医師1名、放射線技師1名、薬剤師1名、看護師1名、事務1名が26日、食料、日用品、医療材料、薬品などを車に積んで宮城県に医療支援に入ります。

「まずは事業所近くの避難所にいこう！」とかすかべ生協診療所も、近隣の受け入れ施設へ。また、先週往診した近くの民間介護施設に、18名の高齢者と一緒に避難してきた介護職員2名が、かなり疲れきっている様子。「行政の避難所以外のところでも、困っている人がいないかも情報を集めたい」（かすかべ生協診療所）。（3月24日付東日本大震災対策本部ニュースNo.15）

○川崎医療生協



第5次宮城支援チーム（医師3名、保健師1名、介護福祉士1名、薬剤師1名、ボランティア1名）が、24日17時に出発。第4次宮城支援チームの医師は「今後は長期間の支援体制が求められる」と。（3月24日付大震災対策ニュースNo.19）

○利根保健生協

群馬県医務課の要請を受け、医療支援第4陣が3月28日より31日まで、宮城県本吉郡南三陸町へ出発。医師1名、看護師2名、事務1名が参加。

また、歯科医療支援として、3月23日から25日かけて松島海岸通歯科診療所を起点に支援。利根歯科診療所より歯科医師1名、歯科衛生士1名、技工士1名が参加。

（3月24日付、「東北関東大震災」被災地支援、被災者受け入れ等の利根中央病院情報より抜粋）

○神奈川みなみ医療生協

3月31日に、22日に宮城県から無事帰った支援隊第1陣の「報告会」を開催予定。今後は、医療生協かながわ、神奈川北央医療生協と合同で、4月10日から14日までと4月22日から26日までの2回に分け支援に入る予定。（3月日、東日本大震災対策本部ニュースNo.11より抜粋）

○大東四条畷保健生協

24日、JR西日本片町線住道駅デッキにて、12人でカンパの訴え。12人（大人10人+子供2人）の組合員、職員の参加で26,835円の義援金が集まる。通勤でなかなか足を止めてくれない場所だが、子供たちが大奮闘。（春よ来い！ニュースNo.5より抜粋）

○尼崎医療生協



尼崎医療生協・第3次医療支援隊 26 日に出発。医師 1 名、看護師 2 名、介護福祉士 1 名の 4 名で結成。4 月 1 日（金）まで宮城県での医療支援に。

第2次医療支援隊の事務職員は、7時から22時近くまで避難所訪問の事務局業務を担当。同支援隊の医師は「支援内容は ER（緊急救命室）、病院外来、避難所診療と支援診療の内容は多彩です。」と報告。

（3月25日付東日本大震災救援ニュースNo.10より抜粋）

○よどがわ保健生協

コープこぶし通り診療所の所長が 23 日、宮城県での医療支援から無事、帰阪。入れ替わるように、事務 1 名が 23 日に宮城入り。26 日にレトルト食品や缶詰、携帯用ガソリン容器を中継地点に配送し、28 日に現地に向けてトラック便で配送。

（3月24日付東日本大震災支援ニュースNo.9より抜粋）

○広島中央保健生協

原子力発電所の事故で藤原副理事長が 27 日に、福島県入りへ。医療生協わたり病院、小名浜生協病院、福島市内の避難所など訪問予定。

○高知医療生協



「24 日午前中は 600 人程が避難しているという『多賀城文化センター』に 20 数人で訪問。施設内の指定場所に仮設診療所を設けるとともに、医師・看護師・事務を 1 組にして避難者を個別に訪問」「午後は、塩竈第 3 中学校の体育館の避難所を 10 名で訪問」（3 月日、東日本大地震災害支援ニュースNo.9より抜粋）。

○徳島健康生協

医師 1 名、看護師 1 名で構成する大震災支援第 3 隊が 25 日、医療支援のため宮城県に向け出発。

松島医療生協に単独で支援に入った第 2 隊児嶋氏の支援報告「被災状況の激しい地域を優先して避難所回りをを行い、歯ブラシを配り、被災者の悩みなども聞きながら、歯科要求を聞いて回りました。被災から 1 週間以上たつと、だんだん歯科要求も出てきており、歯ブラシの配布は大変喜ばれました。現地の職員もそれらの活動を通して元気になってきています」「被災を受けた老健施設にはいりました。入所者 70 人ほぼ全員の口の中の検診をおこないました。飲み水も十分でない中で、歯磨きや入れ歯の洗浄などができる状態ではなく、施設長の話では肺炎を起こす人が数人でできているようです。この状態を解決するため、歯科技工士を中心に入れ歯洗い隊を組織し、園芸用の噴霧器を使って入れ歯の洗浄を行うことにしました。衛生士も同行して、歯磨きも行います」（3月23日・25日付東日本大震災支援ニュースNo.6・No.8より抜粋）

○大分医療生協

看護師 2 名、保健師 1 名が第 2 次医療支援として 25 日に仙台に向け出発。(支援ニュースNo.4 より抜粋)

医療福祉生協連は義援金口座を開設しています。

災害義援金口座は次のとおりです。

(専用口座)

三菱東京UFJ銀行(0005)原宿支店(店番627)

普通預金 0041240

日本医療福祉生活協同組合連合会 東日本大震災義援金口

※振込元に生協名を入れてください

寄せられた義援金は地方公共団体、公的機関等を通じて被災した地域への支援に使われます。義援金についてのお問い合わせは担当(椎野)までお願いします。

担当: 江本 (at_e@hew.coop)・丸山 (kj_m@hew.coop)

電話: 03(4334)1580、FAX: 03(4334)1585